



国民の森林・国有林

中部森林管理局

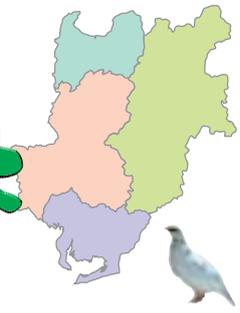
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

# 中部の森林



# 賀正



紅浅間（浅間山）

主な項目	○小禄局長年頭挨拶 ..... P 2
	○2006年 主な出来事 ..... P 4～5
	○風景紀行 阿寺溪谷 ..... P 6



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



# 年頭に当たって 「百年先の森林づくり」をめぐって

中部森林管理局長 小祿 直幸

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年九月に新たな森林・林業基本計画が策定され、今後の森林及び林業に関する施策の基本方針等が示されました。

新たな基本計画においては、「緑の社会資本」である森林の恩恵が将来にわたって享受されるよう、国民のニーズに応えた多様で健全な森林への誘導、国民の安全・安心の確保のための治山対策、国産材の利用拡大を軸とした林業・木材産業の再生を推進していくこととしていきます。

中部森林管理局は、長野・富山・岐阜・愛知の四県に所在する国有林を管轄しておりますが、「日本の屋根」といわれる日本アルプスをはじめとした、脊梁

山脈を擁しています。

この地域は、信濃川、木曾二川などの源流地帯ともなっており、国土の保全・水源のかん養、自然環境の保全等、私たちの生命や暮らしに欠かすことのできない森林の多様な機能を發揮している地域であります。また、同時に木曾・東濃地方に代表される木曾ヒノキや人工林ヒノキの産地として我が国有数の林業地帯ともなっています。

このような地域に所在する当局の立地条件を活かし、本年も森林・林業基本計画の理念に即して「木の交流」・「水の交流」・「人の交流」をキーワードとした新たな施策に向けた具体的な取組を推進していきたいと考えております。

## ◇木の交流

地球温暖化防止対策及び災害に強い山作りのため、間伐等の森林整備を推進し、

それに伴い生産される利用可能な木材を有効に活用することとしています。このため、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率な作業システムの整備・普及を民有林関係者も含めて推進していきたいと考えております。

また、上・下流域に所在する原木市場などの民間事業者、そして近隣の森林管理局間と情報交換を行いつつ、消費者や木材関連業界のニーズを取り入れた木材の生産・販売等を行うとともに、木材需要の動向や業界の将来展望を踏まえた対応を検討していきたいと考えております。

## ◇水・人の交流

管内には、信濃川、木曾二川、神通川、天竜川、庄川等の我が国有数の河川があり、下流域の水量の安定や良質な水の確保に対する要請に應えるため、上・下流

域の関係者の連携による森林整備が行われています。

特に、針葉樹一斉林では、針広混交林化、広葉樹林化、長伐期化など百年先を見据えた多様な森林に誘導していくこととしており、また、都市近郊林では、スギ等の人工林が多いことから間伐を推進するなど地域のニーズに合ったメリハリのある森林整備を進めていきたいと考えております。

また、森林とのふれあいや森林整備等に参加するボランティア・NPO等の活動に国有林のフィールドを提供し、上・下流域の連携や活動への支援を行ってきたいと考えております。

このように、中部森林管理局は、大地に深く根を張った事業を進めていきたいと考えております。

以上、年頭にあたりまして、所感の一端を申し上げたところですが、本年が災害のない明るい職場であることを願うとともに、ご家族ともども皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。



# えと ことい 今年の干支は丁亥



今年の干支は「丁亥」の年です。干支の十二支は、子・丑・寅・卯…で始まります。なぜこの順番なのでしょう

か。  
十二支の動物の順番は、昔々、ある年の暮れに神様が動物たちに「元旦の朝、新年の挨拶に一番に来た者から十二番目まで順番に一年間、動物の大将にしてやろう。」と言われ、動物たちは元旦を待っている、猫がいつ行くのか忘れ、ねずみに聞き、一日遅れを教えられました。牛は、遅いからと夜のうちに発発し、これを見ていたねずみは、牛の背中に乗り、神様の神殿の近くに來ると背中から飛び降り一番となり二番は牛となりました。その後、虎、兎、辰、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪の順番で着き、猫は次の日になつたため十二番内に入れず、怒って今でもねずみを追い回すのだそうです。

今年の干支は亥、「イノシシ」はどのような動物でしょう。

(3) 平成19年1月  
イノシシは、分類学上、哺乳動物綱、偶蹄目、イノシシ科、イノシシ属に属し、日本には、ニホンイノシシと亜種のリュウキュウイノシシの二種類が生息しています。ニホンイノシシは、西日本を中心とする本州・四国・九州に生息していますが、近年は豪雪地帯の北陸・東北にも分布を広げています。

特徴は、森林に棲み、単純な胃を持ち反芻をしない偶蹄類で、雄は牙を持っています。体重は百キログラム程になり、リュウキュウイノシシは五十キログラム程と小さいです。子どもを一度に二〜八頭産み、春の出産に失敗すると秋にも出産します。子どもには縞模様がありウリ坊と呼ばれますが、これは、木漏れ日で保護色になります。四ヶ月の授乳期を過ぎると模様も消えます。

狩猟獣ですが、捕獲頭数が少なくなり生息数も増えて農産物等の被害が出ていることや、神戸市では住宅地に出没して住民とのトラブルも出ています。

イノシシの肉は、万病を防ぐと言われ無病息災の象徴です。今年も良い年でありますように。



## シリーズ8

### 実験林・試験地等紹介

#### 「赤沢ヒノキ林施業実験林」

森林技術センター



木曽ヒノキは古くから秋田スギ・青森ヒバとともに日本三大美林としてその名を馳せ、とりわけ赤沢ヒノキ天然林は木曽を代表する森林であり森林浴発祥の地として知られています。しかしながら、

赤沢自然休養林へ足を踏み入れると、ヒノキではなくアスナロが下層を覆い、このままではヒノキ林からアスナロの林へ姿を変えることが予測され、ヒノキ天然林の永続という観点から憂慮されています。

このため、昭和五十八年当時の長野営林局は、ヒノキ林の永続を図るためには下層のアスナロ処理、上木抜伐りによる照度条件の改良等を行うことにより改善が図られると推測し、自然休養林の取扱いは慎重に行う必要があることから、赤沢自然休養林に隣接して、ヒノキ天然更新の施業方法を実験・調査するための施業実験林を設定し、上木の伐採を行いました。

伐採から二十年余り経過した現在の更新については、母樹が総当たり九十九本の試験区で、高さ一メートルを超えるヒノキ更新木は総当たり二万千本、母樹が百十八本の試験区では、同じく更新木が千二百五十本、母樹が百五十七本の試験区では、一メートルを超える更新木は無い状況です。上層の母樹が少ない試験区ほど光条件が良く更新木が良好に生育しています。

事業規模による長年の試験から、ヒノキ更新木がアスナロや灌木より優位になり得るためには、ヒノキにとって良好な光環境を作り、更新を促進することが赤沢ヒノキ天然林の永続に不可欠であることが分かってきました。木曽ヒノキとして成林するまでに三百年ほどかかること

から、今後も更に実験・報告を進め後世に木曽ヒノキ天然林が引き継がれるよう取り組みを進めたいと考えています。

所在地：長野県上松町

小川入国有林一〇〇林班



ヒノキ天然林の下層を占有するアスナロ



上木の伐採により生育旺盛なヒノキ更新木

二〇〇六年 主な出来事

◆1月◆

- 13 小椋新局長発令
- 16 中部局庁舎が警察署に。
- 19 テレビ東京ロケ
- 19 中部森林技術交流発表会 (中部局)



ロケの撮影シーン

◆2月◆

- 10 治山・林道工事コンクール表彰式 (中部局)
- 10 レクリエーションの森リフレッシュ対策検討委員会 (中部局)
- 10 FFG「ブナの郷カヤの平の森」抽選会 (中部局)
- 13 国有林モニターによる「モニター会議」 (中部局)
- 14 治山・林道工事コンクール表彰伝達式 (名古屋市内)
- 15 森林管理署長等会議 (中部局)
- 17 長野林政記者クラブ賞贈呈式 (長野市)
- 21 民有林全体計画検討委員会 (中部局)
- 22 溪流生態系配慮型治山事業計画策定

◆3月◆

- 1 中日造林賞贈呈式 (名古屋市内)
- 3 神坂森林事務所新築
- 13 治山事業連絡調整会議 (中部局)
- 15 「森林環境管理保全協定」を締結 (飛騨市)
- 17 レクリエーションの森リフレッシュ対策検討委員会 (中部局)
- 17 上松町と分収造林契約 (中部局)
- 18 環白山進歩自由夢が開催 (白山市)



登山者に説明するグリーンサポートスタッフ

◆4月◆

- 1 木曽森林環境保全ふれあいセンターが移転
- 3 グリーンサポートスタッフによる森林巡視活動を開始 (中部局管内)
- 16 木材販売促進「春姫道中」 (名古屋市内)

- 20 局長等会議 (長野市)
- 25 平成十八年度業務予定を記者発表 (中部局、名古屋事務所)
- 26 森林管理署長等会議 (中部局)
- 29 長野庁主催「日18年度森林の市」 (東京都日比谷公園)
- 29 緑の募金の街頭募金を実施 (長野市)
- 29 「みどりの日フェスティバル06」開催 (愛知所管内)

◆5月◆

- 13 「長野県植樹祭」開催 (長野県根羽村)
- 13 「愛知県植樹祭」開催 (愛知県豊橋市)
- 17 飯御植代木伐採式 (木曽署)
- 18 森林計画現地会議 (南信署)
- 21 「第57回全国植樹祭」開催 (下呂市)



全国植樹祭行幸啓で天皇皇后両陛下にご説明する小椋局長

◆6月◆

- 17 第一回森林パノラマウォーク (北信署)
- 27 高山植物等保護対策協議会 (中部局)
- 28 永年勤続職員の表彰式 (長野市)
- 19 梅雨前線による豪雨災害発生
- 19 国有林野観光施設協議会総会 (長野市)
- 21 祖父谷検討委員会 (富山市)
- 23 神流川発電所落成披露式 (群馬県上野村)
- 25 「とやま森の祭典」開催 (高岡市)
- 26 「南木曾伝統工芸の森」協定締結 (南木曾支署)
- 26 森林計画現地会議 (東濃署)
- 27 「未来世紀へつなぐ緑のバトン」開催 (王滝村)
- 29 「中野区遊々の森」協定締結 (東信署)

◆7月◆

- 19 祖父谷検討委員会 (富山市)

◆8月◆

- 4 職員員森林・林業体験学習研修会 (北信署・木曽署管内)
- 4 ヒメバラモミ保護管理調査事業検討委員会 (中部局)
- 22 名古屋城本丸御殿復元用材斧入れ式 (木曽署管内)
- 24 名古屋城本丸御殿復元用材斧入れ式 (東濃署管内)
- 30 平成17年度決算概要を公表 (中部局)

(5) 平成19年1月

- 8 ◆9月◆ 国有林・民有林連絡推進会議（三重県）
- 5 流域管理調整官会議（中部局）
- 5 長野県産材振興対策協議会要請活動（中部局管内）
- 7 祖父谷検討委員会（富山市）
- 11 森林施業現地検討会（木曽署管内）
- 14 局長等会議（林野庁）
- 14 第2回森林パノラマウォーク（南信署管内）
- 20 レクリエーションの森林リフレッシュ対策検討委員会（愛知所管内）
- 20 報道機関の国有林視察（南信署管内）
- 21 中央アルプス木曽駒ヶ岳周辺の植生復元（南信署管内）
- 25 低コスト作業システム現地検討会（飛騨・岐阜署管内）
- 27 森林管理署長等会議（中部局）
- 28 国有林野管理審議会（中部局）
- 30 「木曽川・森づくりin赤沢」を開催（木曽署管内）



ヒメバラモミの雄花

- 1 ◆10月◆ 木づかい推進月間
- 2 低コスト作業システム現地検討会（岐阜署管内）
- 4 乗鞍岳保護林現地検討会（飛騨署管内）
- 5 国有林管理審議会（中部局）
- 5 造林現地検討会（北信署管内）
- 10 富山県低コスト作業システム現地検討会（富山署管内）
- 11 林政記者クラブ国有林視察（南信署管内）
- 11 国有林野事業販売協力者感謝状贈呈式（上松町）
- 12 指導普及連絡会（富山署管内）
- 13 「ながの緑のオーナー友の会」交流会開催（木曽署管内）
- 15 「森林の絵画コンクール」表彰式（名古屋市内）
- 18 治山現地検討会（南信署管内）
- 20 岐阜県低コスト作業システム現地検討会（岐阜署管内）



報道機関の国有林視察

- 25 グリーンボランティア・サミット（愛知所管内）
- 25 林道現地検討会（北信・東信署管内）
- ◆11月◆
- 6 治山事業連絡調整会議（中部局）
- 8 稲垣三郎氏瑞宝単光章を受章
- 13 会計実地検査（17日まで）
- 17 富山県低コスト作業システム現地検討会（富山署管内）
- 22 国有林野等所在市町村長有志連絡協議会（松本市）
- 25 砂防治山交流会議（中部局）
- ◆12月◆
- 11 本庁監査（15日まで）
- 14 銘木販売連絡会議（名古屋市内）
- 22 神通川・木曽谷・飛騨川森林計画区地域管理経営計画等検討会（中部局）



瑞宝単光章を受賞された稲垣三郎氏

二〇〇六年に実施した森林ふれあい事業

◆名古屋シティ・フォレスト事業

- 4/22 樹木見本林整備（愛知所管内）
- 5/10 遊歩道チップ敷き作業（木曽署管内）
- 5/27 遊歩道チップ敷き作業（木曽署管内）
- 6/3 園地周辺の刈り払い作業（愛知所管内）
- 6/9 遊歩道チップ敷き作業（岐阜署管内）
- 6/21 植栽木の刈り出し作業（富山署管内）
- 7/14 外来種除去作業（富山署管内）
- 7/20 除伐作業（愛知所管内）
- 7/28 下刈作業（南木曽支署管内）
- 8/7 外来種除去作業（飛騨署管内）
- 9/22 間伐作業（岐阜署管内）
- 10/13 歩道整備と刈り払い作業（東濃署管内）
- 10/28 間伐作業（愛知所管内）
- 11/17 竹林の伐採と整備作業（東濃署管内）
- ◆森林パノラマウォーク
- 6/17 新緑の関田山脈を歩く（北信署管内）
- 9/14 日本百名山「木曽駒ヶ岳」を登る（南信署管内）

◆森林ふれあい講座

- 4/8 しいたけ菌打ち（名古屋事務所）
- 5/20 自然観察会・湿原の観察とトレッキング（愛知所管内）
- 6/10 ホタルの観察会（愛知所管内）
- 7/23 こども樹木博士にチャレンジ（愛知所管内）
- 8/20 森林クラフトと紙芝居（名古屋事務所）
- 10/1 ネイチャーゲーム（名古屋事務所）
- 11/18 鑑賞炭づくり体験（愛知所管内）
- 12/2 手作りリースづくり（名古屋事務所）



犬帰りの淵

「南木曽支署」木曽郡大桑村阿寺国有林を流れる、木曽川支流の阿寺川一帯は、風光明媚なことから、阿寺溪谷と呼ばれ、風致探勝林にも指定されています。溪谷は、木曽ヒノキをはじめとする木

### 阿寺溪谷

ふう けい き こう  
**風景紀行**  
 あ であい こく  
**阿寺溪谷**  
 21  
 南木曽支署  
 (各署の景勝地等を紹介)



色白になるという美顔水

曾五木や一〇〇年を超えるヒノキ人工林に覆われ、雨が降っても濁らないといわれる清冽な水が、滝や深い淵を造りながら流れ下っています。淵は、吸い込まれるような深いエメラルドグリーンに染まり、木曽川で最も美しい支流の一つといわれています。これは、基岩が白く、随所に深い淵が発達しているためで、周囲の緑や岩の白さとともに訪れた人々を魅了しています。溪谷沿いには「犬帰りの淵」や「千畳石」などと名付けられた景勝地が点在し、新緑の季節から、紅葉の季節まで、多くの人々が訪れています。特に、夏には、川遊びを楽しむ子供たちの声が谷に響きわたります。この溪谷は、深い淵と浅瀬が交互に現れ、適度な水量を保っていることから、川遊びに最

適なようです。

また、この谷には、「美顔水」といわれる湧き水があり人気を集めています。この「美顔水」には、「そのむかし、木曽の山林を管理するためにやってきた尾張の国の役人たちの奥方が、朝に夕に、この水で顔をあらったところ、みちがえるほど美しく色白になった。」という話が伝わっています。木曽に出かけられた際には、少し寄り道をして、「美顔水」を試してみたいかがでしょうか。

#### ◇アクセス

◎公共交通機関を利用した場合

JR中央西線野尻駅下車

タクシー利用で一〇分

◎自動車を利用した場合

中央自動車道中津川I.C.より塩尻方面へ五〇分

長野自動車道塩尻I.C.より中津川方面へ一時間四〇分



エメラルドグリーンに染まる阿寺溪谷

### 行事・会議等の予定

◎事業担当課長会議

1月18～19日 林野庁

◎国有林野情報管理システム

1月29日～2月2日 中部森林管理局

◎中部森林技術交流発表会

2月8～9日 中部森林管理局